

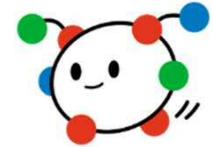


一人ひとりの支え合いによる
まちづくりを目指して
コミュニティファンド
「南砺幸せ未来基金」

富山県 南砺市



南砺市の紹介

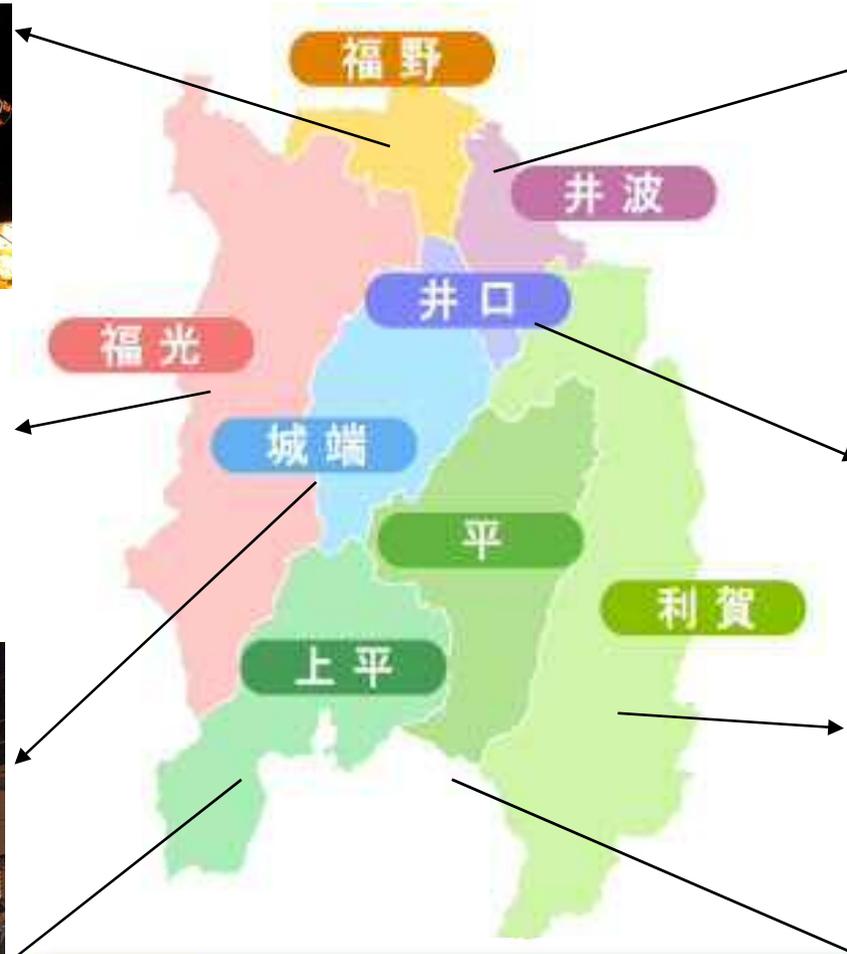


本市は、富山県の南西端に位置し、面積は668.86平方キロメートル(東西約26キロメートル、南北約39キロメートル)で、そのうち約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。

北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000メートルから1,800メートル級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接しており、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。



2004年（H16.11.1）に8町村が合併!!



人口 住民基本台帳人口：50,437人
(R元年.9月末) うち外国人数：927人

世帯数 17,694世帯

面積 668.86 km² (琵琶湖とほぼ同じ)

【基本理念】小さな循環による地域デザイン

【基本方針】

- ①再生可能エネルギーによる地域内エネルギーの自給と技術の育成
- ②農林業の再生と商工観光業との連携
- ③健康医療・介護福祉の充実と連携（地域包括医療ケ
- ④未来を創る教育・次世代の育成
- ⑤ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによる
- ⑥森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による
集落の活性化

エコビレッジ
の普及

EV交通
システム

森育て
ネットワーク

循環型農業
の推進

ヘルスケア
ネットワーク

情報発信
機能の強化

エネルギーの
自給率向上

伝統文化の
継承拠点づくり

生ゴミ堆肥化
システム

交流とにぎ
わい

なぜ今、エコビレッジ構想なのか



経済優先社会への不安

自然の大きさといのちの尊さ



日本経済新聞



産経新聞

人間関係の大切さ



人と人、人と自然との関係を改めて考え直す必要がある

世界の人々が、
すべて日本人と同じ生活をしたら。



2.5個

アメリカと同じなら



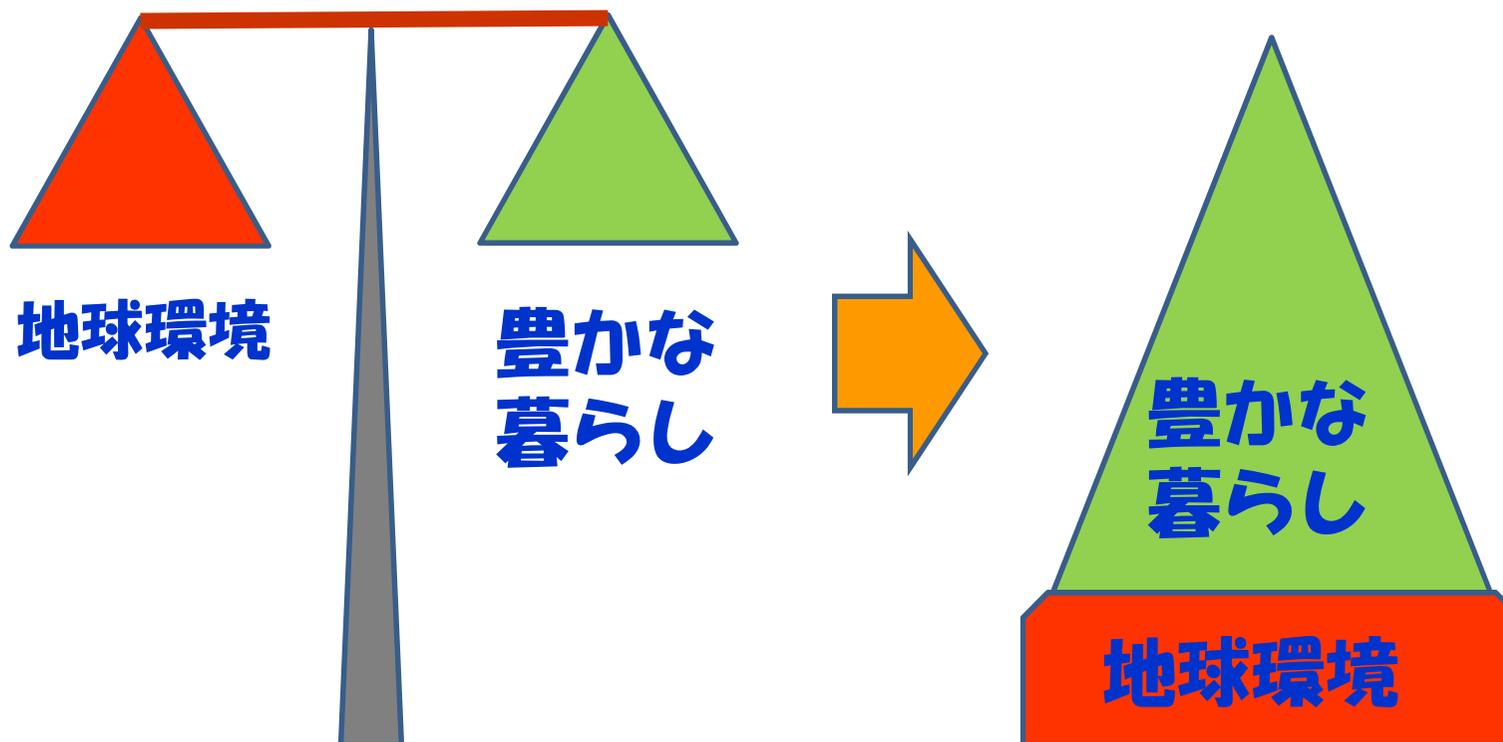
5.4個

世界平均では

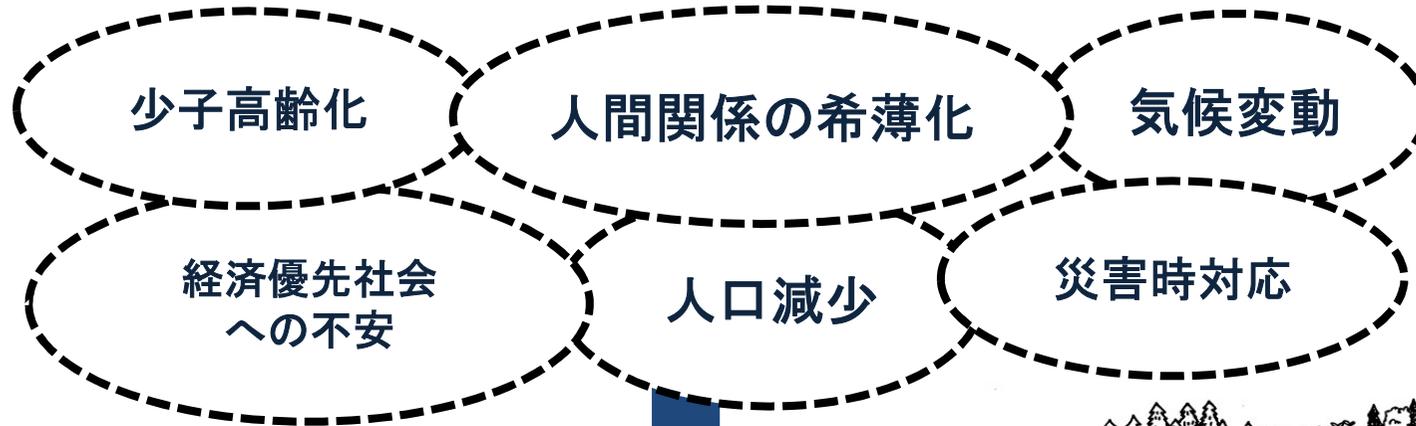


1.25個

地球環境と豊かな暮らしを天秤にかけるのではなく、
地球環境という規模の制約の上に心豊かな暮らしの形
をつくる

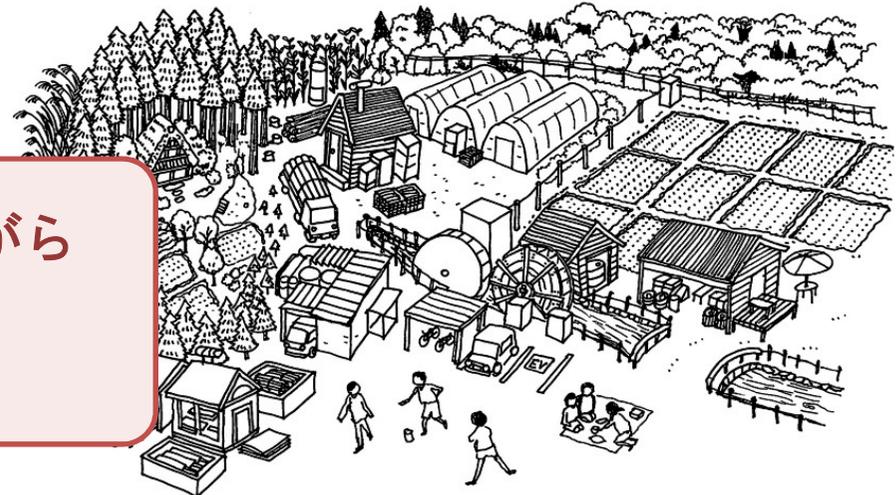


なぜ今、エコビレッジ構想なのか



これらの解決するには

自然と共生し、人と人が支え合いながら
目に見えない豊かさが実感できる
「新しい暮らし方」が必要



新しい暮らし方」の実現には

地域資源（人、物、文化、お金）の、
地域内の循環と地域外との交流

地域の自立

なぜ、エコビレッジ構想なのか



エコビレッジ構想は、南砺市が、地域が、人類が、地球が
50年後も生き残るため、地球一個分の暮らしのために
今すべきことを提案しています。

一人一人が「**かけがえのない大切なものとは何か？**」

ということを考えながら

ひとつひとつの**選択**を変えていく。足場を変えていく。

ことが必要。

「便利」＋「思いやり（自然、人、地域、未来）」

＝50年後の未来へとつながる選択

2030年 持続可能な開発目標 SDGs と合致

南砺市エコビレッジ構想とエコビレッジプロジェクトの概要



【基本理念】 小さな循環による地域デザイン

自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築

- 【基本方針】 ①再生可能エネルギーの創出 ②農林業の再生 ③健康医療福祉介護の連携
④次世代の人材育成 ⑤ソーシャルビジネスの推進 ⑥新しい暮らし方の提案

エコビレッジ住宅ゾーン

南砺産材による自然共生住宅と南砺の風土にあった住宅ゾーン・新しい暮らし方の提案



再生可能エネルギーの活用

分散型エネルギーによる災害に強い拠点づくり
太陽光発電（自家消費）
木質ボイラー（温泉加温、給湯、空調）

合掌家屋「かず良」再生

350年の歴史を誇る合掌家屋の再生と麻や養蚕などの伝統産業の復活

合掌造り「かず良」カフェ、ゲストハウス
養蚕・絹織物・麻（麻布）

エコビレッジ桜ヶ池モデル地区

桜ヶ池エコビレッジプロジェクト委員会との連携

薪・ペレットの供給

木質エネルギー利活用

南砺の8割を占める木質資源のエネルギーシステムの構築

クリエイタープラザ

アニメ、映像、音楽などのコンテンツ産業の集積

一般社団法人 REBIRTH PROJECT

エコビレッジ法人 (株)つなぐ南砺の設立

キッチンカー営業、桜ヶ池美化活動・植樹、エコビレッジPR事業

一般社団法人 リバースプロジェクトとの連携

循環型農業の拠点 「オーガニック街道」事業



木質発酵熱利用や炭素循環農業等の安全安心で美味しい循環型農業の推進

エコビレッジ部活動

市内高校生・中学生の活動への支援

循環農業 共学農園 世代交流 地域文化

エコビレッジモデル事業

市民提案事業への支援

- ① バーク発酵熱農業
- ② 農産物加工販売
- ③ 古民家再生カフェ
- ④ 寺子クラブ
- ⑤ 南砺の山の炭焼き
- ⑥ パーマカルチャー
- ⑦ 堆肥化循環事業

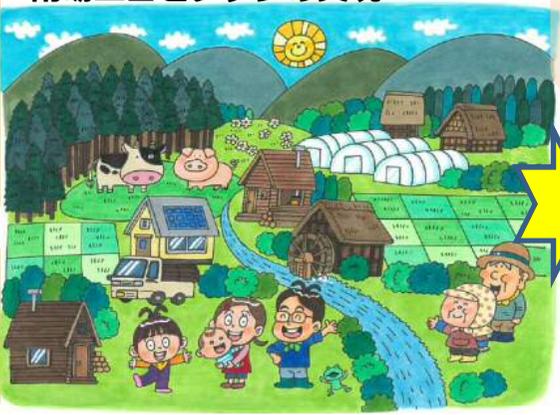
コミュニティファンドの活用

地域の思いを地域の知恵と資金で自ら実現する仕組みづくり

公益財団法人 南砺幸世未来基金

森里川海の人的ネットワークの活用

市内全域への波及 南砺エコビレッジの実現



確かな未来は懐かしい過去にある

南砺エコビレッジの新しい暮らし方の提案による次世代につなぐ持続可能な循環型社会を目指します
南砺の354自治会が地域資源を活用し自立できる地域づくりを進めます

「一流の田舎」を目指す



都会は人がつくり、 田舎は神がつくる。

神は田舎をつくり、人間は都会をつくった。
だとすれば野や林の中においては、健康と徳が満ちあふれ、最もおびやかされることが少ないとしても何の不思議があろう。

英国の詩人 ウィリアム・クーパー

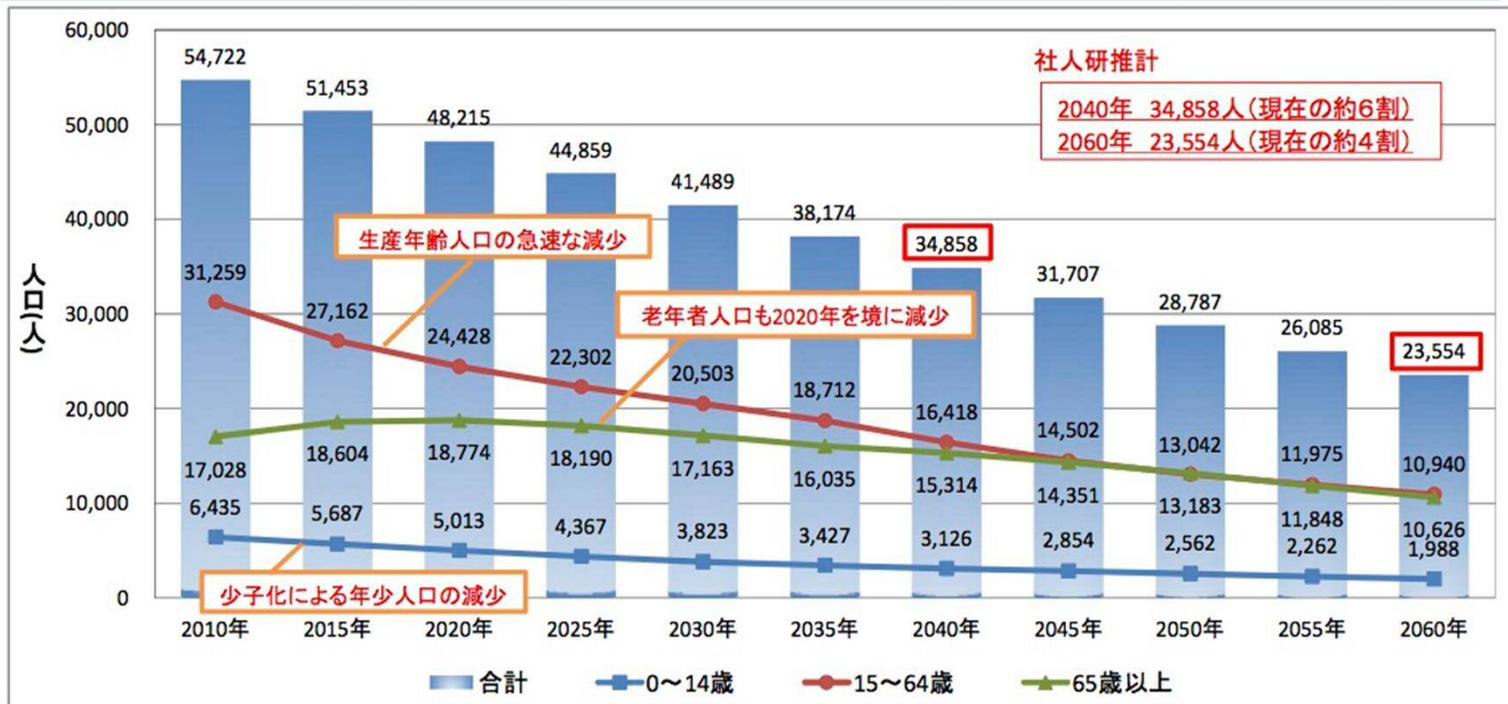
「第65回日本観光ポスターコンクール」にて、
南砺市の観光ポスターがオンライン部門4位に選ばれました。
審査員賞は逃したものの、オンライン投票部門で見事4位を獲得。3位との票差は57票、また5位には220票もの差をつけた大健闘です。今後は主要駅・空港・ツーリズムEXPOジャパン会場(旅行博)などに飾られます。

2017年5月26日

1

今後何も対策をしなければ南砺市の人口は6割減少

社人研による人口推計



2

人口減少の主な要因は、

- 合計特殊出生率（年間出生数）の低下（減少）

合計特殊出生率（年間出生数） 2010年：1.44（378人）→2040年：1.39（117人）

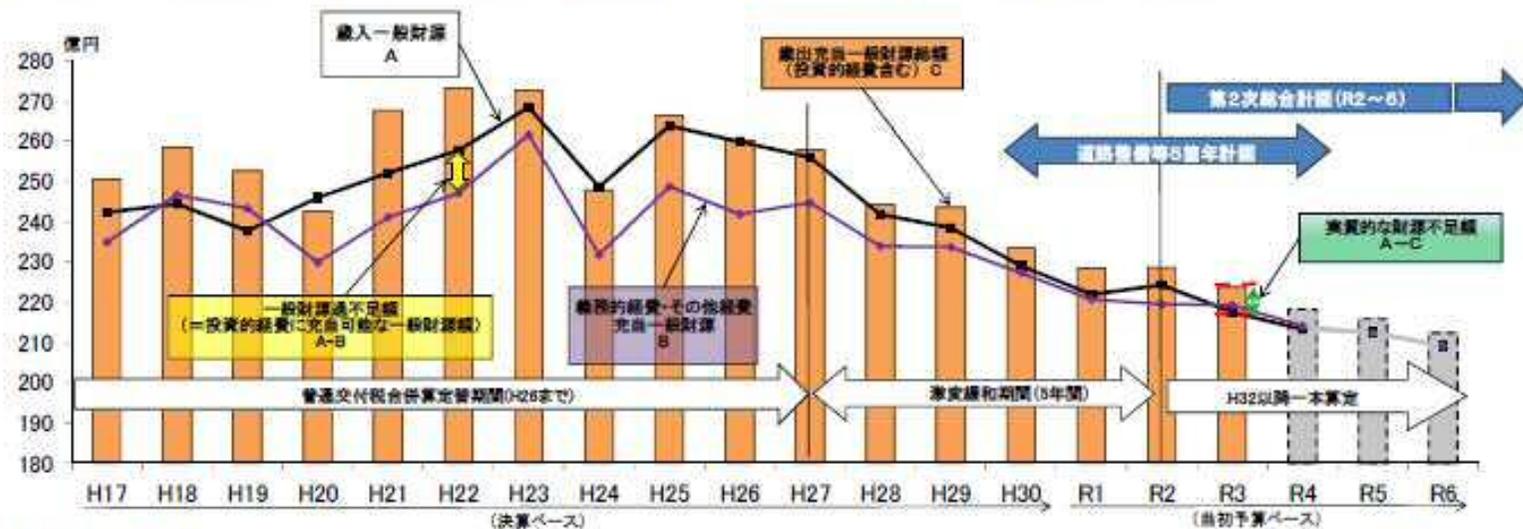
- 若い世代の流出による社会減（純移動の減） 年間約△300人

南砺市の財政見込み

今後の財政見通し(歳入一般財源と性質別経費充当一般財源の見込み)

令和元年度以降における財政見通し(普通会計)については、当初予算ベース(総合計画実施計画ローリングを踏まえ)で作成しているものであり、今後策定予定である第2次総合計画(令和2年度～6年度)や、庁舎機能の再編を含む公共施設再編計画の進捗等により、その見通しが大きく変動することが予想されるため、平成30年度決算を踏まえ、再度見直しを図っていくこととしています。
 なお、経常的に生ずる見込みの一般財源不足への対応策として、①一般行政経費に対する△5%シーリングの継続、②投資的経費に対するマイナスシーリングの実施、③行財政改革の推進を行います。

●シミュレーションの前提
 ①普通交付税については、合併算定費による段階的削減額を令和元年度まで見込んでいます。なお、令和3年度算定から、令和2年度実施の国勢調査人口が適用されることから、人口減による影響額を△5億円として試算し、令和3年度以降は、同額で推移するものとして試算しています。
 ②将来的な公債費負担の軽減を図るため、減債基金から28億円程度を計画的に繰り入れることとしています。なお、公債費のピークは令和4年度を見込んでいます。
 ③職務的経費のうち、人件費については令和2年度までは定員適正化に基づく試算、令和3年度以降は退職者の3/4補充の職員数として仮試算、扶助費については、平成30年度以降、年率で1.55%の伸びで試算、また、公債費については、償還計画に基づき計上しました。
 ④令和2年度以降、事業成果が高いと認められる旧総合戦略事業については、制度設計の見直しを図り、事業の整理統合を行った上で市単独事業として継続するものとして1.0億円を計上しています。



●歳入一般財源と歳出充当一般財源との差額の推移

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
歳入一般財源 A	242.3	244.4	237.7	246.0	252.1	257.7	268.4	248.6	263.8	259.9	256.0	241.8	238.5	229.0	221.9	224.3	217.6			
うち合併算定費以降の普通交付税										136.6	133.9	125.9	122.1	120.2	116.0	116.0	111.0			
職務的経費-その他経費 充当一般財源 B	234.9	246.7	243.3	229.9	241.3	247.1	261.8	231.8	248.7	241.9	244.7	233.9	233.7	227.3	220.7	219.5	219.3			
歳出充当一般財源総額 (投資的経費含む) C	250.6	258.5	252.5	242.7	257.7	273.1	272.7	247.9	266.4	260.2	257.8	244.2	243.5	233.5	226.4	228.6	223.8			
差 額 A-B	7.4	△ 2.3	△ 5.6	16.1	11.0	10.6	6.8	16.8	15.1	18.0	11.3	7.9	4.8	1.7	1.2	4.8	△ 1.7			
差 額 A-C	△ 8.3	△ 14.1	△ 14.9	3.3	△ 15.9	△ 15.4	△ 4.3	9.7	△ 2.6	△ 0.3	△ 1.9	△ 2.4	△ 3.0	△ 4.5	△ 6.3	△ 4.3	△ 6.0			
(参考)財政預金基金残高	52.1	52.1	47.2	43.5	45.7	53.9	64.1	64.3	64.6	64.9	60.2	59.4	30.8	34.8	28.3	24.0	18.0			
(参考)減債基金残高	23.3	18.4	18.4	18.6	23.5	34.6	53.9	54.1	64.9	65.2	65.4	65.8	61.1	58.3	55.3	52.4	49.6			
実質公債費比率(36年平均)	17.2	20.5	21.2	19.8	16.9	14.3	12.4	10.1	8.1	7.2	6.1	4.7	3.9	3.6	4.2	6.1	6.7			

【表中の用語】

- 歳入一般財源 …… 市税、地方譲与税、交付金、地方交付税、臨時財政対策債借入額、前年度繰越金
- 職務的経費充当一般財源 …… 人件費、扶助費、公債費にあてた一般財源
- その他経費充当一般財源 …… 職務的経費、普通建設事業費、災害復旧事業費以外の経費にあてた一般財源、補助費、物件費、繰出金が主なもの。

南砺市公共施設等総合管理計画

人口の減少、少子高齢化の急激な進展や厳しい財政状況が続く中、将来の子や孫たちのためにわたしたちがやるべき責任とは何でしょうか。

今後30年間、すべての公共施設を維持することはできません。30年後の子や孫、ひ孫のために、公共施設の縮減が必要です。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



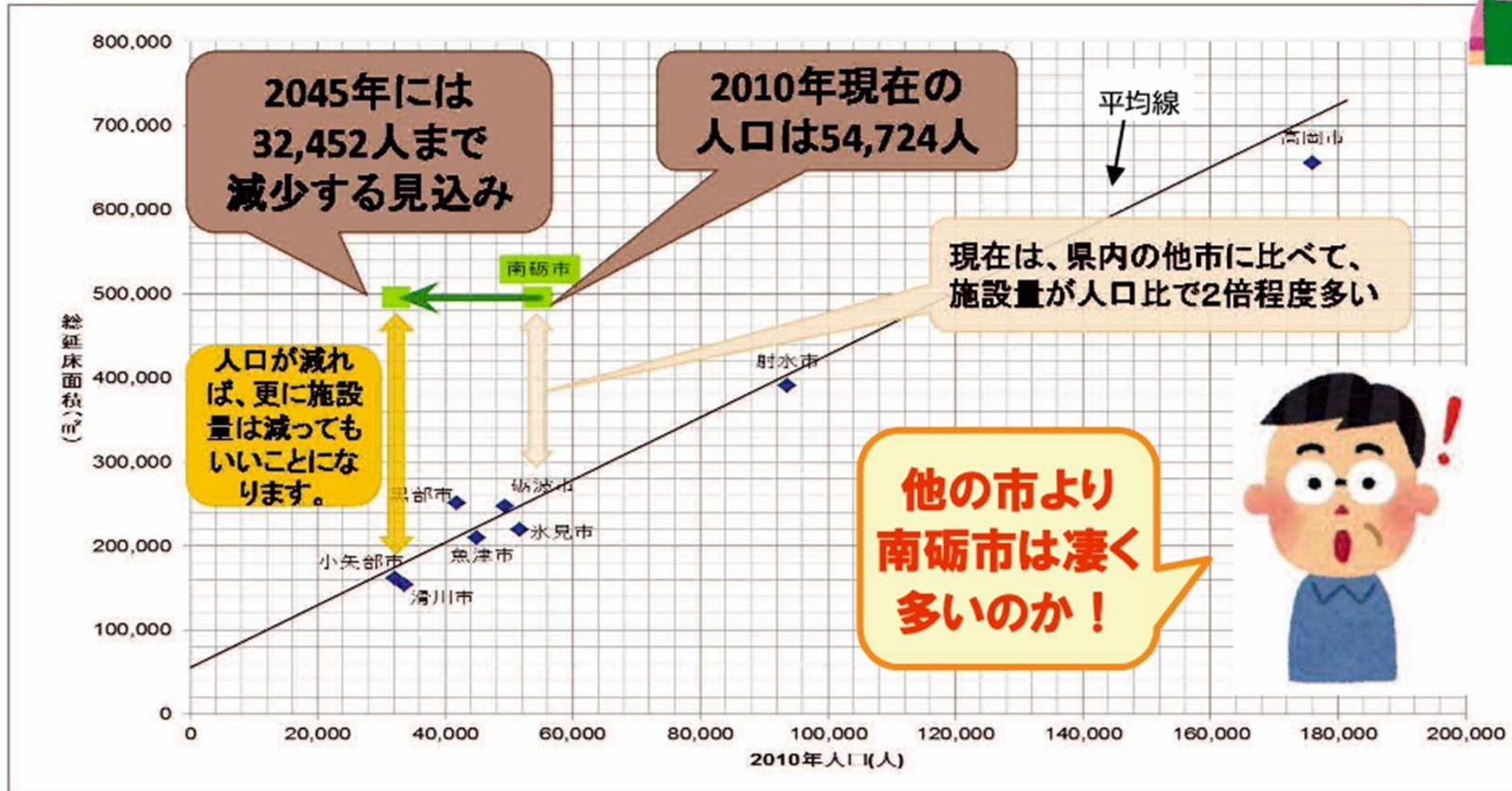
僕たちのことも、
考えてね。



公共施設再編計画

他市との比較

南砺市は、県内の他の団体の平均である図表内の直線に比べて大きく離れており、人口に比べて建物総延床面積が多い状況がよく分かるね。



今後の施設整備にかかるお金(過去3ヶ年との比較)

市が保有するすべての公共施設を同じ規模で今後も維持管理や建て替えたと仮定した場合、今後 **30 年間でかかる費用総額は 2,213.2 億円 (年間 73.7 億円)** で、過去の整備費用 (3ヶ年平均) 41.9 億円と比べると 1.7 倍の費用がかかります。

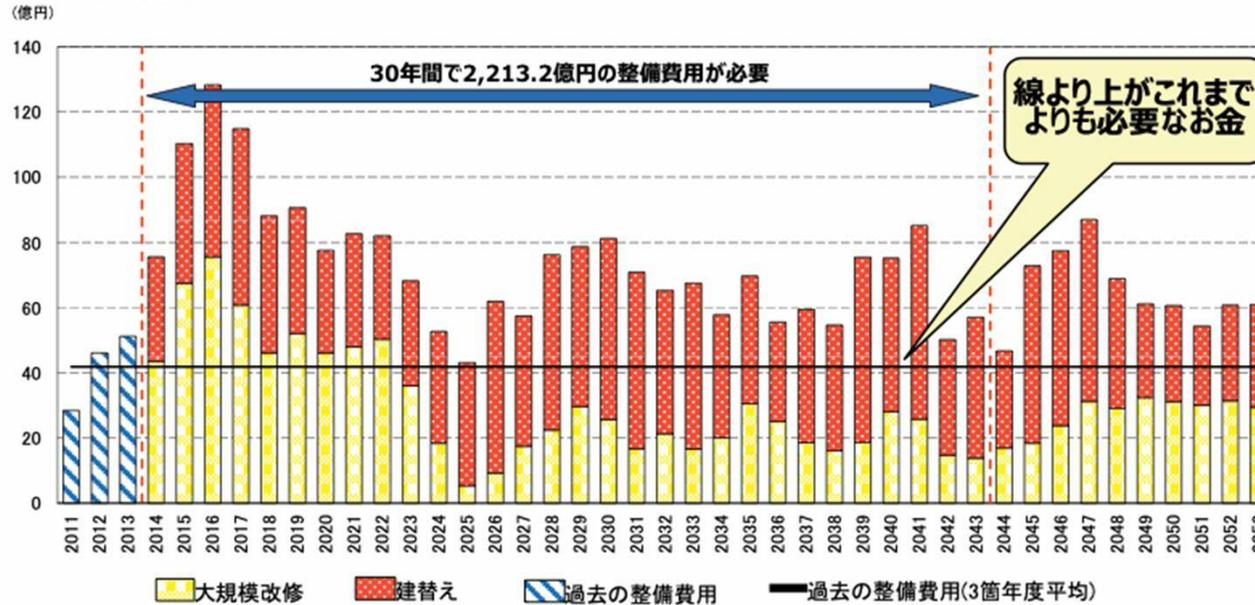


公共施設を維持し続けるのに **年間約 32 億円の財源不足か!**
すべての施設を残していくのは不可能だな……



整備にかけてきた金額
(3年平均)

これからかかる整備費用
(30年平均)



公共施設の整備で、
毎年 31.8 億円の不足が
見込まれます

3. 地域の所得循環構造（南砺市）

南砺市総生産（/総所得/総支出）1,832億円【2010年】



注) 消費＝民間消費＋一般政府消費、投資＝総固定資本形成(民間)＋総固定資本形成(公的)＋在庫移純増

南砺幸せ未来ファンド(仮称)

コミュニティビジネススタートアップ支援

現状

- ① 多様化する地域の困りごと
- ② 希薄な地域コミュニティ
- ③ 地域課題が「自分ごと」という意識がない
- ④ 少子高齢化による人材不足



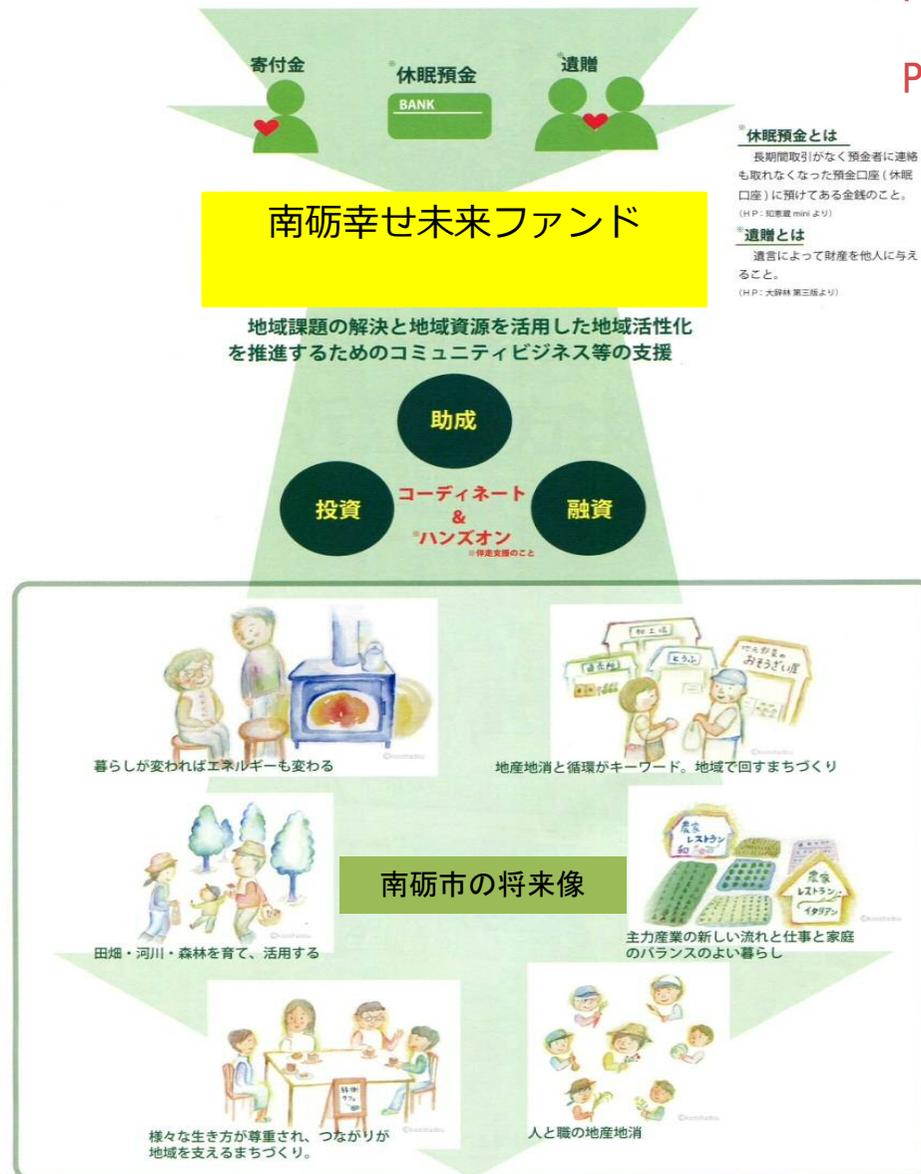
では、どうする？

- ・地域資源を循環させてみよう！
- ・他地域、他分野に課題解決のノウハウを応用してみよう！
- ・地域コミュニティの再生、ネットワークの構築に動き出そう！
- ・地域課題が「自分ごと」という意識をもとう！

課題解決のための1つの仕組み

ファンドを活用して地域の新しい暮らしを創る！

南砺幸せ未来ファンド 目指すカタチ



Point: **社会的収益の見える化**
(経済・環境・社会的価値)

Point: **社会的認証(信用)**

たとえば・・・

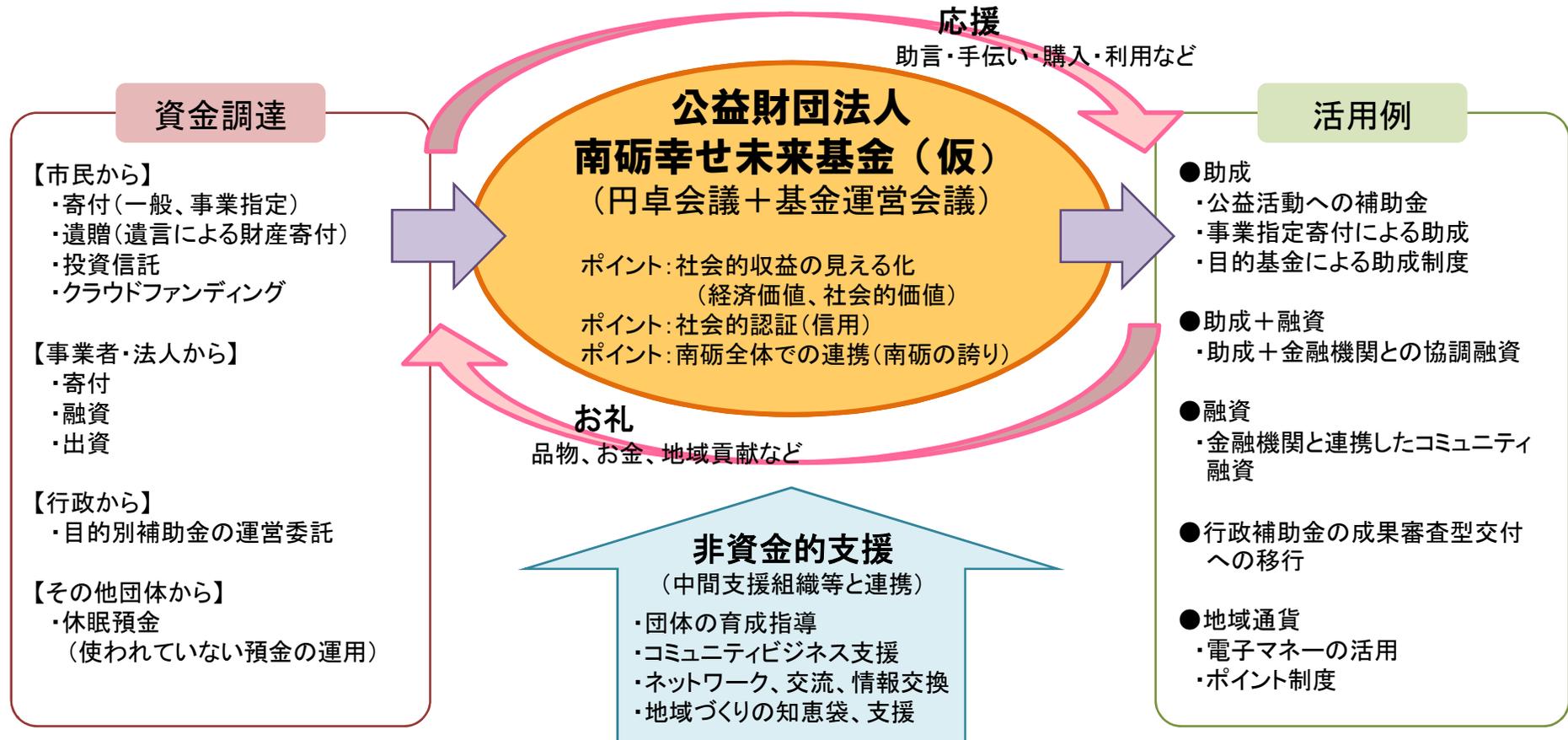
- 地域材を活用した商品開発
 - ・ 農家レストラン
 - ・ 木のおもちゃ製作
- 空き家を活用して地域活性化
 - ・ 空き家をリノベーションしてゲストハウスに
 - ・ 空き店舗でコミュニティビジネスを
- 伝統産業の再生
 - ・ 絹や綿、麻の新たな商品開発
- 山の暮らしと里の暮らしをつなげる試み
 - ・ 山の暮らし体験ツアー
 - ・ 南砺市1周キャンプツアー
- 若手企業家への支援
- 認知症カフェの運営

～コミュニティファンドを活用したまちづくり～ 「(仮称)南砺幸せ未来基金」の概要

地域の思いを 地域の知恵と資金で 自ら実現する仕組みづくり

人や自然、文化などの地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動などを応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用する。

基金の運営を通して、資金だけでなく、人と人をつなぐことで、支え合う地域の力を育てる。



1. 基金設立に向けて(1st Step)



H29年11月

基金設立発起人会設置

- ・基金を活用した次世代育成等のまちづくりについて検討。

H30年2月

基金設立準備会設置

- ・発起人の拡大。趣旨、事業について確認。

H30年4月

設立呼びかけ

- ・寄付募集開始。

H30年6月

円卓会議開催

- ・基本財産300万円以上の寄付金が集まった時点で開催。
- ・賛同者による寄り合い。

H31年2月

一般財団法人「南砺幸せ未来基金(仮)」設立

- ・法人登記
- ・公益認定を県に申請
- ・運営体制の整備

公益財団法人「南砺幸せ未来基金(仮)」設立

公益財団法人
南砺幸せ未来基金
(仮称)



「南砺市幸せ未来基金」実現に向けたロードマップ

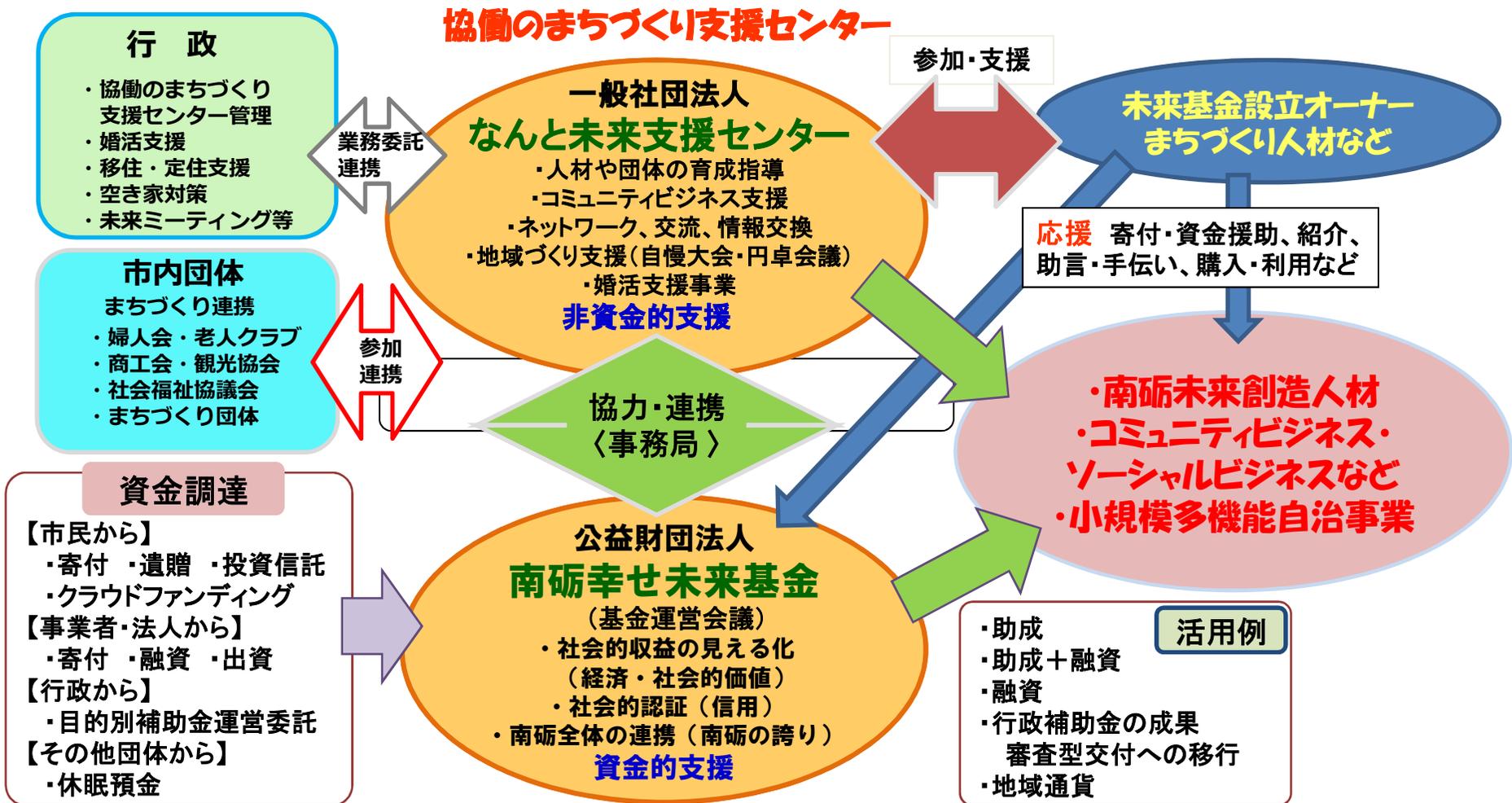
項目			H29年(2017年)	H30年(2018年)	H31年(2019年)	H32年(2020年)
志金受入	1. 基金設立	コミュニティファンドの原資として寄付を集め、財団を設立。	財団法人設立発起人会設置 財団法人設立準備会設置	寄付金集め ファンド名称決定 →一般財団法人設立 →公益財団法人設立 企業への寄付呼びかけ		社会的認証→全国的な動きを見据える
	2. 遺贈等寄付受け入れ	寄付金だけでなく、土地や建物の寄付も想定。		司法書士や税理士との勉強会 一般向けセミナー開催	遺贈寄付等受け入れ メニューを提示できるように	企業も認証対象へと拡大
	3. 休眠預金受け入れ	国の動きを注視しながら、休眠預金を活用するための地域の受け皿を想定する。	【国の動き】 「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る志金の活用に関する法律」施行(H30.1.1)	休眠預金活用を想定した仕組みづくり	【国の動き】 ・指定活用団体の指定(H31春頃) ・指定活用団体の事業計画の認可(H31夏頃) ・資金分配団体への助成、貸付等	受け入れ開始
支援方策	4. コミュニティ助成	行政課題にはなりにくいテーマへの支援。 財源の目的が明確な場合の助成(つなげよう、支えよう森里川海プロジェクトなど)。	具体例研究	事業指定寄付制度の運営試行	事業指定寄付制度の本格運営	
	5. コミュニティ融資	地域課題の解決や地域活性化につながる事業への融資。	具体例研究 ファンドとの提携融資のテーマ検討	金融機関にてファンドとの提携融資を提案		
	6. コミュニティ投資	地域金融機関において、東近江市の取り組みを応援する投資商品を販売。	具体例研究	全国区で投資商品をつくれる組織設立 南砺版社会的投資商品の検討	南砺版社会的投資商品化 地域金融機関にて販売	
	7. 南砺版ソーシャルインパクトボンド(SIB)	行政の補助金等を民間資金を活用した成果型補助にかえる。	具体例研究	補助金等の洗い出し	現存事業にて南砺版SIBを試行	南砺版SIB説明会開催(行政&市民)
	環境づくり	8. 非資金的支援	活動団体等との連携(「なかったものをつくる」インキュベータな役割→コレクティブインパクト)。		寄付月間啓発 協働大賞決定 協働ラウンドテーブル運営試行	
9. 機運醸成		感謝状を出すなど、寄付や社会的投資への機運を高める。		キックオフフォーラム開催 寄付表彰の検討		

コミュニティファンドの創出「南砺幸せ未来基金」



地域の思いを地域の知恵と連携と資金で自ら実現する仕組みづくり

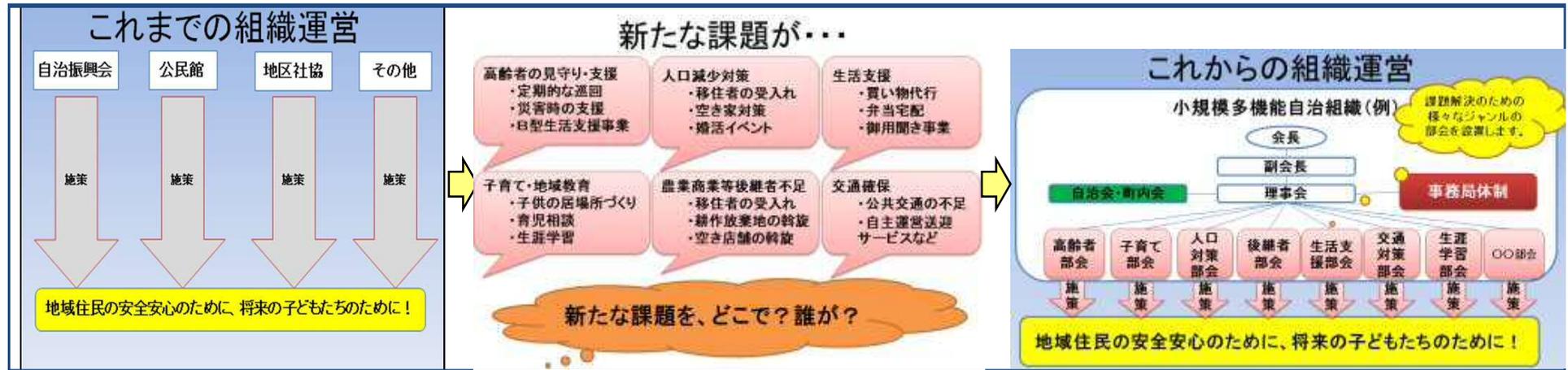
人や自然、文化等の地域資源を活用しながら、若者のやる気に溢れる活動や地域が抱える諸課題を解決する活動等を応援することで、地域を元気にし、未来の南砺を創るための仕組みとして基金を活用する。基金の運営を通し、人と人を繋ぐことで、支え合う地域の力を育てる。



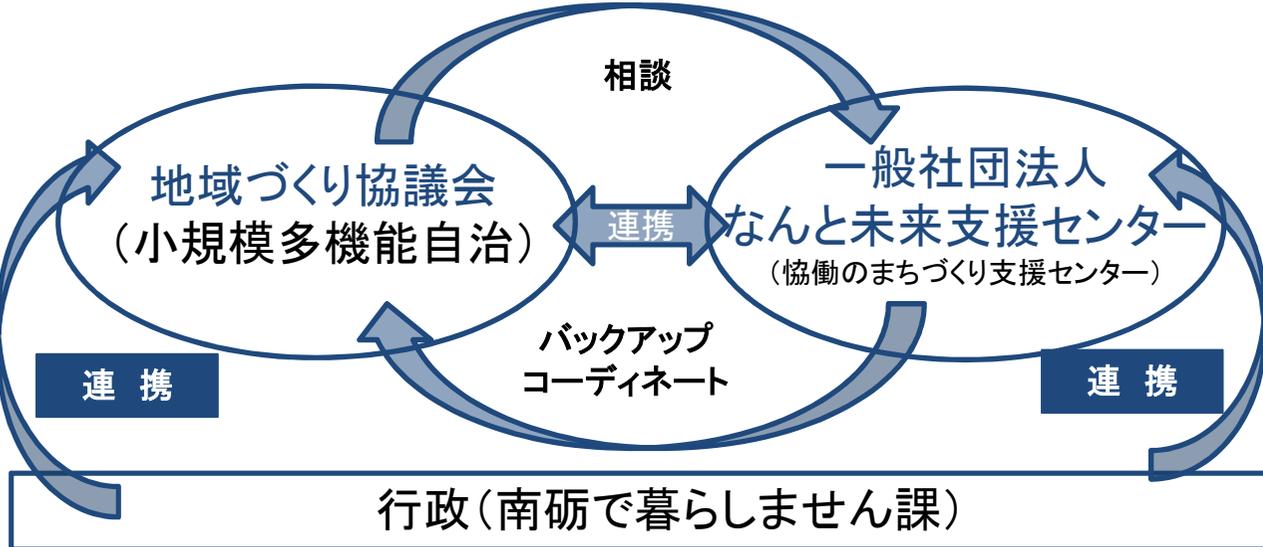
住民自治の再構築「小規模多機能自治」



急激な人口減少や過疎化により地域の疲弊が危惧される中、地域の持続のため
また地域力を高め活性化を進めていくためには依存型の住民自治では困難。
地域ごとの多様な課題を解決するため、組織体制を見直し全ての住民参加による
地域づくり＝自治(＝決める＋担う)を協議しながら進め真の住民自治を再構築する。



組織を作ることがゴールではなく、まずは地域における縦割り組織を解消すること、課題を見つけ解決に向けた取組みをすること、そして何よりも地域住民(男女の区別なく幅広い世代)の意識改革が必要です。
このため、4月からは、**一般社団法人なんと未来支援センター**が地域と行政をつなぐパイプ役として、地域づくり協議会の運営面を行政とともに支援するとともに、地域づくり協議会を対象とした住民自治セミナーや事務局向けセミナー、各地区の取組発表会等の開催のほか、民間視点による婚活事業を展開します。



基金を活用した事例イメージ

※写真はイメージです



<事例1：伝統工芸技術を生かした商品ブランディング>

実施主体：株式会社等

地域に根差す伝統産業や地域森林資源の付加価値を高め、ブランド家具として生産・販売する。森林整備と雇用の創出に貢献するため、伐採から木材加工・販売までをつ



<事例2：森林資源活用エネルギー事業>

実施主体：一般社団法人、株式会社等

市内に眠る森林資源を薪やペレットストーブの熱エネルギー源として積極的な利用を行う。エネルギー購入によるキャッシュアウトを抑制し、適切な森林育成に貢献する。



<事例3：土徳文化を生かした次世代育成>

実施主体：一般社団法人、NPO等

里山の森林を整備し、こどもたちの心に種をまく活動を提供する。森の保育園やネイチャースクエコツアー等も開催し、自然と共生する社会基盤を行なう。



自然資本
～森里川海～

人的資本
～次世代育成～

一般財団法人
南砺幸せ未来基金

人工資本
～インフラ～

人間関係資本
～人と人のつながり～

<事例4：空き店舗を地域活性化拠点に>

実施主体：株式会社、NPO等

コミュニティビジネスの拠点となる空き店舗を改修し、コミュニティカフェを開店。地域のマルシェや観光プランを企画・運営するまちづくり会社の拠点とする。



<事例5：有機農法を中心とした農業食育活動>

実施主体：個人事業主、NPO等

炭素循環農法や有機農法など、こどもたちが安心して美味しく食べられる農作物を生産する農業従事者を育成し、その加工/販売過程での付加価値を高める。



<事例6：地域をつなぐ地域包括ケア>

実施主体：自治振興会、自治会等

地域住民による高齢者の介護予防や日常生活支援のほか、放課後児童クラブなどの子育て支援も行い、地域が自ら守り育てる活動を行なうことで、地域の絆や愛着、誇りを醸成し、住み続けられる場所づくりを行なう。



南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業

「発酵バイオマス農業」

桜ヶ池バイオマス農業推進協議会



発酵ガスに含まれるCO₂には成長を促進させる作用があり、短期間での収穫や収穫回数が増加するなどの効果があった。また、作物が活性化されたことにより、腐りにくく、食味の良い作物が収穫できた。

廃棄される木の皮を発酵させると、発酵による熱とCO₂等のガスが発生する。その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期でも気温15度以上維持することができ、一年を通した温室栽培が可能となる。



南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業

「拠点施設スリジエ整備」

桜ヶ池農産加工組合エキップ



立野ヶ原のおいしい野菜を自家製酵母で焼いたパンにはさんだサンドイッチやピクルス、ジャム、マカロンなどを販売。桜クリエ内のカフェ「トリアン」にも食材を提供しています。



「形が悪いだけで出荷できなかったり、人手が確保できずに収穫されないおいしい野菜がもったいない。」

そんな思いから生まれたアイデアを商品にしていく取り組み。農家もパン屋も地域も元気になります。



エコビレッジ人材育成事業 「エコビレッジ部活動」

南砺福野高校、南砺福光高校、南砺平高校



南砺福野高校

循環型農業研修やグリーンカーテン設置、小水力発電学習を行い、環境保全について学ぶ。
中学生や地域住民との農作業交流も行い、暮らしの中にある農業を見直しも行って

南砺市特産のあんぽ柿や立野原いちごとマシュマロを合せた新作スイーツの試作を行った。指導には地元菓子店が協力。
高校生自ら試作、パッケージデザインなどを行い、福光高校ブランドとして販売。



南砺福光高校

あんぽ柿マシュマロいちごマシュマロ

エコビレッジ P R 事業

「キッチンカー地産地消事業」

(株)つなぐ南砺



【メニュー例】

- ・ホットサンド
なんとポークと福野玉ねぎのしょうが焼
桜ヶ池小松菜と塩麴のオムレツ
- ・なんと野菜たっぷりスープ
- ・福野高校製福野産りんごジュース

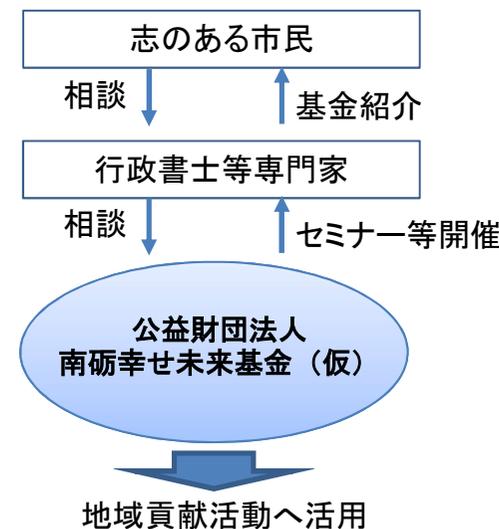
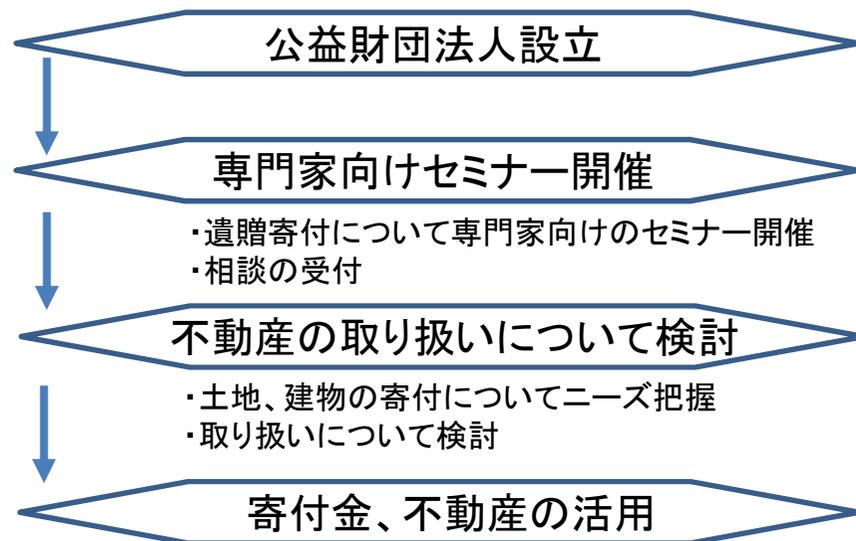
エコビレッジ構想の発信のため、旬の地域食材を使ったメニューの提供を行っている。南砺の野菜や加工品などの P R も行う。南砺産竹を使った「マイ箸づくりワークショップ」も同時開催し、ゴミの減量と手作りの良さについても P R している。



2. 遺贈等寄付受入(2nd Step～)

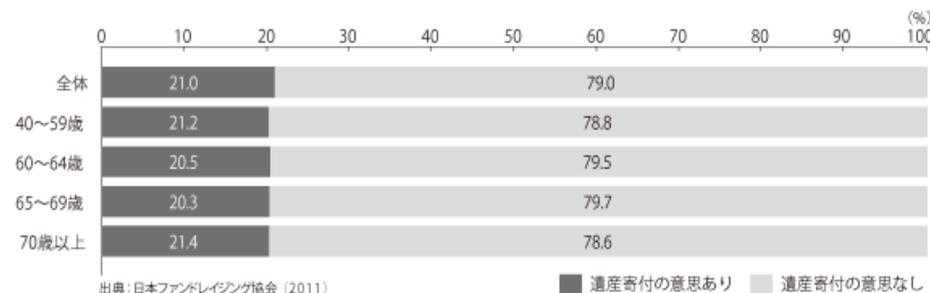


ご遺言により、ご自身で築いた財産を特定の人々に分けることを「遺贈」といいます。
 この遺贈による相続は、民法が定める法定相続の規定よりも優先され、遺言書の内容により遺産の受取人やその内容を指定することができます。地域に貢献する活動を応援する基金への寄付を促進し、次世代に先人の思いをつなぐ仕組みを作ります。



※遺贈寄付の現状

●40歳以上の2割が遺贈寄付の意思がある
 寄付白書2015によると、40歳以上を対象に遺産の処分について聞いたところ、どこかに寄付する意思がある人は全体で21.0%でした。



【基金の役割】

- ・専門家との勉強会開催
- ・基金の普及啓発
- ・不動産等の取り扱いについて検討
- ・遺贈等寄付の受け入れ

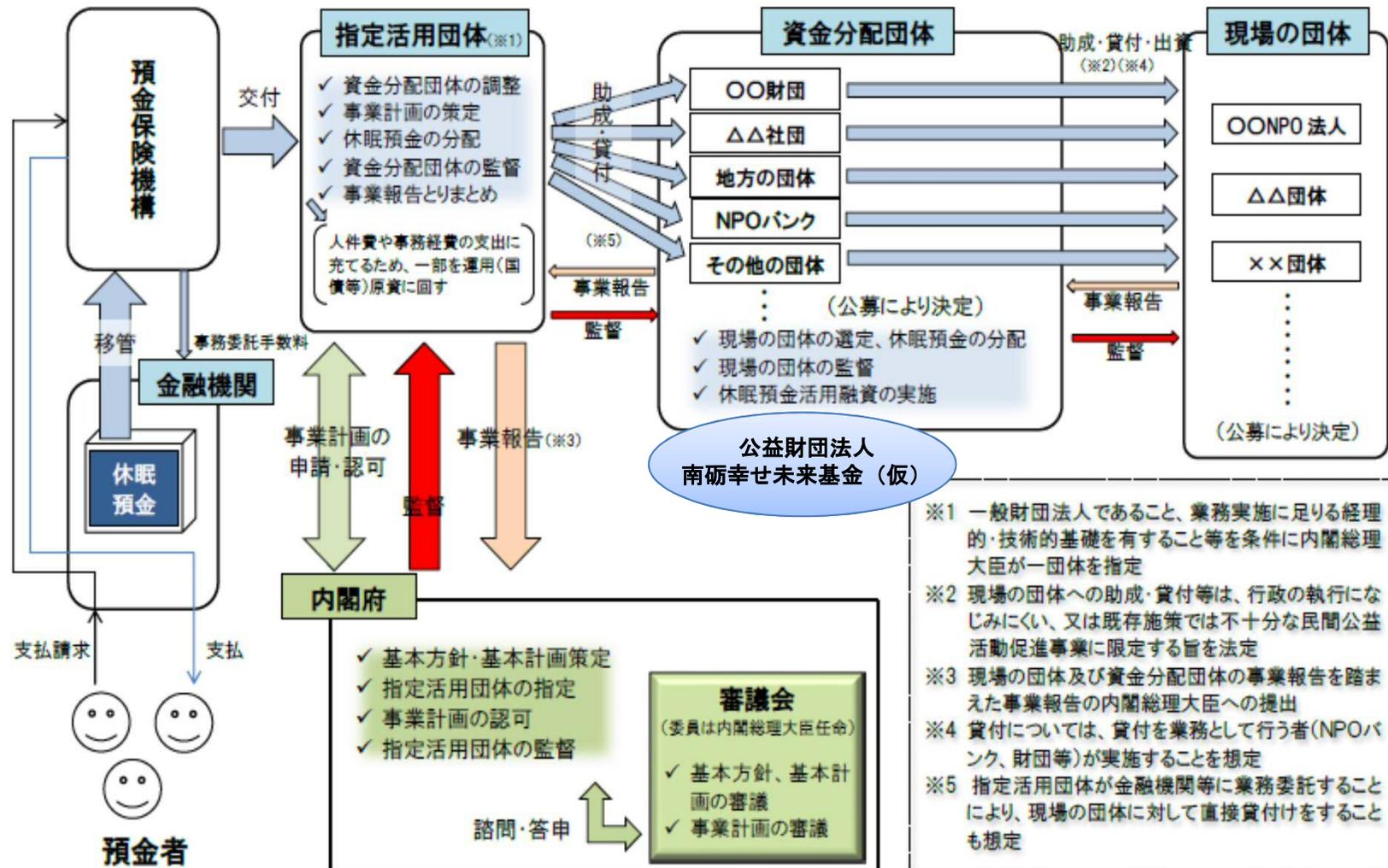
3. 休眠預金 (2nd Step~)



休眠預金等に係る預金者等の利益を保護しつつ、民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(平成28年法律第101号)の本格実現に向けて、体制を整備する。

「休眠口座国民会議」が解体、「休眠預金未来構想プラットフォーム」が設立された。

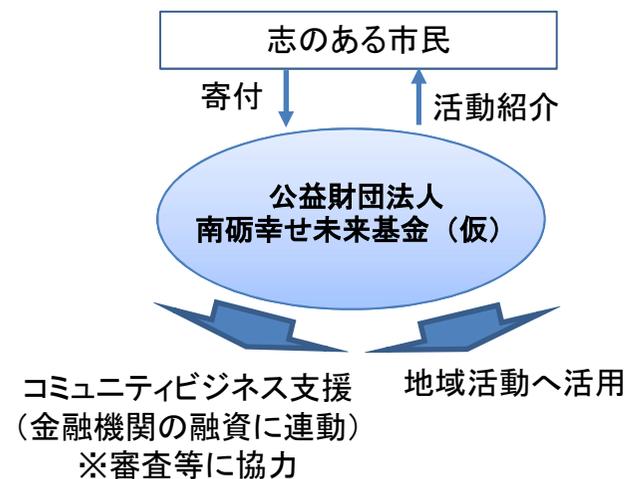
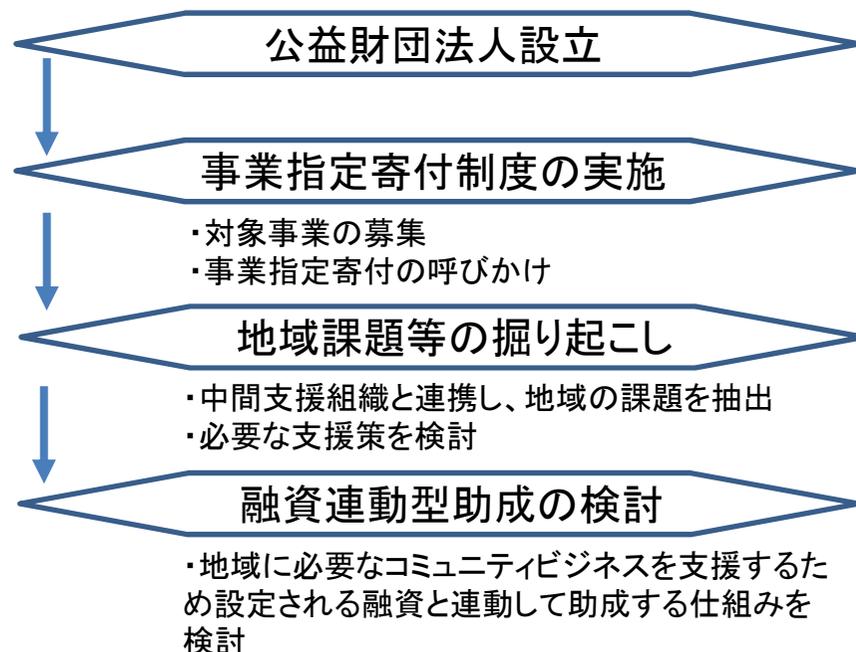
休眠預金の移管・管理・活用の仕組みのイメージ



4. コミュニティ助成(2nd Step～)



「事業指定寄付制度」を実施。なお、地域課題の解決に必要なテーマを設定し、助成する仕組み(単独助成、融資連動型)を検討する。



※南砺市で想定される事業指定寄付制度の事案

- ・介護予防・日常生活支援事業
- ・協働のまちづくり事業
- ・エコビレッジ構想推進事業

など

【基金の役割】

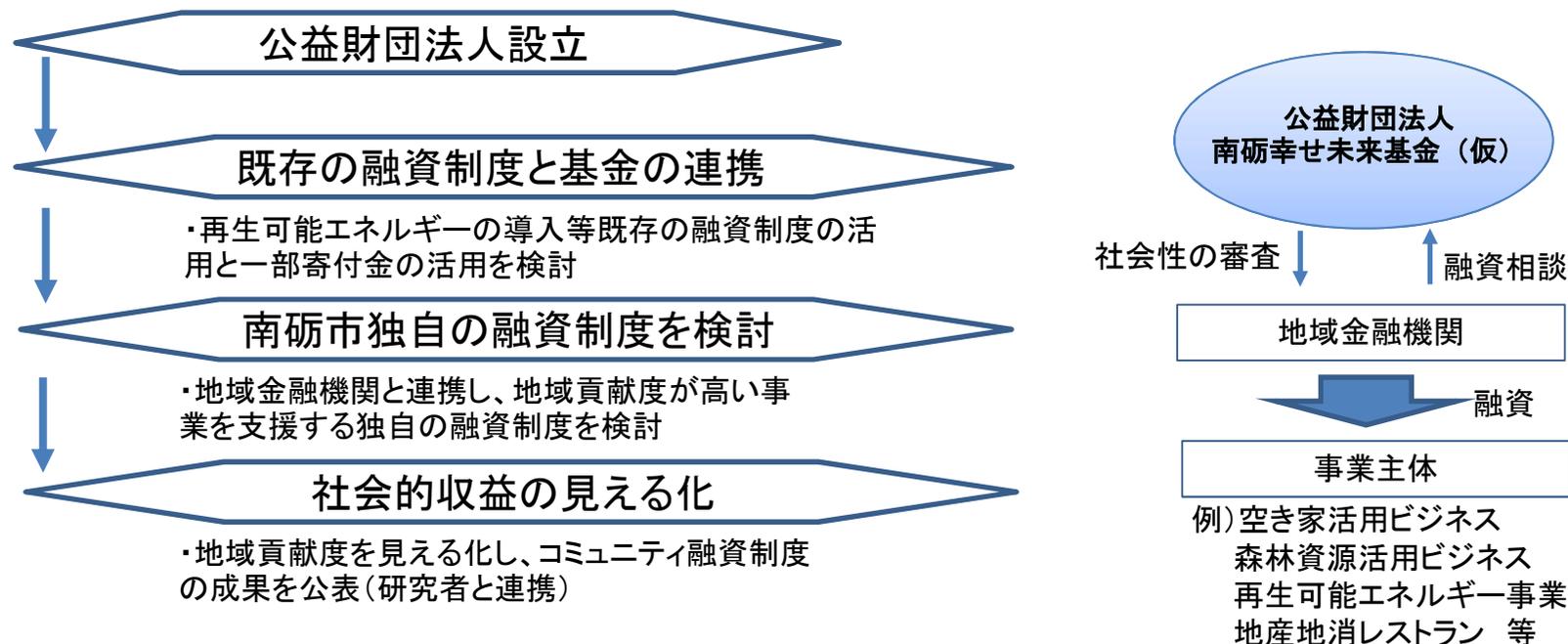
- ・事業指定寄付制度の運営
- ・寄付募集の働きかけ
- ・地域課題から新たな支援策を検討
- ・金融機関と連携する融資連動型の助成を検討

5. コミュニティ融資（2nd Step ～）



ECOTO
環境共生エコレッジ機構

南砺市内で空き家の活用、再生可能エネルギーの導入など地域課題を解決するコミュニティビジネス等に取り組む主体を資金的に支援する融資制度を地域金融機関と協働で立ち上げる。



空き家を地域文化体験ゲストハウスにリノベーション

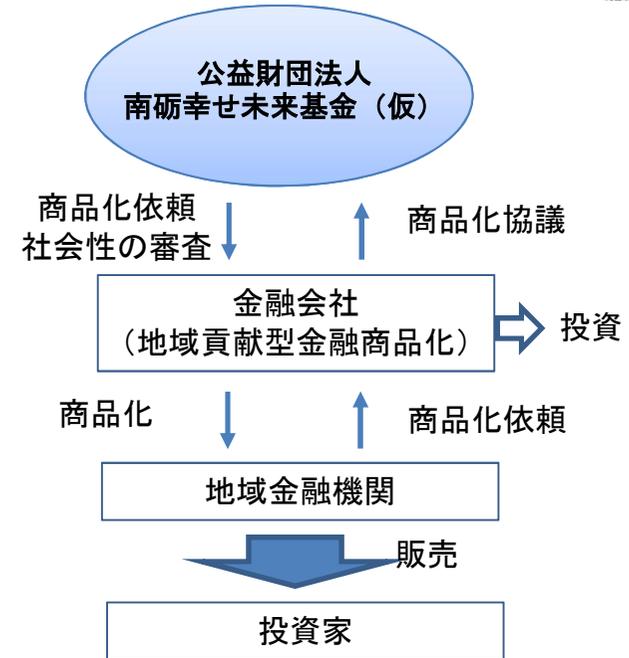
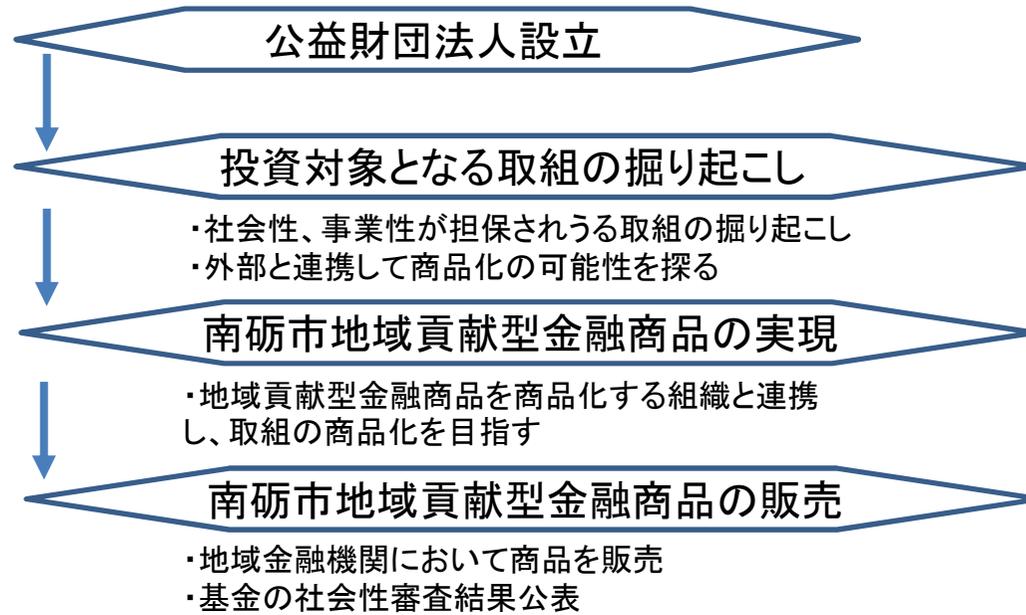
【基金の役割】

- ・ビジネスプランの検討を支援する。
- ・金融機関に寄せられる融資相談について社会性の審査を行う。
- ・金融機関と連携して独自の融資制度を検討する。
- ・融資決定された事業の社会的収益の見える化を検討する。

6. コミュニティ投資 (2nd Step~)



地域貢献型の投資について商品化する組織と連携し、コミュニティファンドが目指すテーマの実現に資する取引について商品化し、地域金融機関で販売することを目指す。



項目	年次	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020~
		インフラ集中整備期		基礎業、資金仲介者のスケールアウト期		資金循環システム出現期		
骨太のシナリオ		社会性投資実用型に向けたロードマップ策定、社会性投資インフラの投資プラットフォーム構築		社会性投資実用型に向けたロードマップ策定、社会性投資インフラの投資プラットフォーム構築		社会性投資実用型に向けたロードマップ策定、社会性投資インフラの投資プラットフォーム構築		
出し手	① 税制優遇			社会的投資減税				
	② 運用認知			年金基金、財源等の蓄積促進				
仲介者	③ 公的資金等の活用			地方自治体等に社会性投資プラットフォームの活用				
	④ 資金仲介者の育成・支援			資金仲介者の育成・支援				
受け手	⑤ 資金仲介メカニズムの創設	社会的インパクト債券(SIB)プロトタイプ作り(地方自治体、中央官庁)		SIB導入拡大		社会的証券取引プラットフォーム創設		日本型社会的証券取引市場創設
	⑥ 社会的企業の育成・支援			社会的企業認証制度創設		NPO、ソーシャルビジネスのスケールアップ、スケールアウト		社会的企業の発展段階に応じた支援制度の拡充
環境づくり	⑦ 推進体制の確立	SB社会的インパクト投資プラットフォームの創設	社会的投資推進協議会設立		社会的投資促進に資する法整備・制度改善実施			
	⑧ エコシステムの構築		社会性投資活用開始		日本型社会的インパクト投資プラットフォーム創設		政府や自治体の公的調達における社会性投資の導入	
	⑨ 社会的投資の認知向上		「社会に役立つ社会の活かし方」の教育実践モデル化		社会的投資の専門家の育成		日本中での小中規模で「社会に役立つ社会の活かし方」の教育実践	

【基金の役割】

- ・投資対象となる取組の掘り起こし
- ・地域貢献型を担保する社会性の審査
- ・地域貢献型金融商品の普及宣伝
- ・投資家対象セミナーの開催

南砺市 SDGs 未来都市

「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化
～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

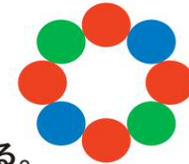
Future vision

将来ビジョン 「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～



1

南砺市の土徳文化を次世代に継承する取組みや支え合いによるまちづくりの取組を通して、地域資源の循環や相互補完が可能となる人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、これらを基金運営等により支えることで、SDGsおよび「南砺版エコビレッジ事業」を更に深化させ「一流の田舎」を実現する。



Goals and targets

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

経済



「やりたいこと」が「できる」地域を実現

産業創出

- 「オーガニック街道」の整備
- 伝統産業のリデザイン「南砺ブランド商品開発支援」

人材育成

- クリエイター育成マッチング事業

森林

- 森林資源を活用したビジネス再生



クリエイタープラザ
(ブランド商品開発、クリエイターの拠点)



森林資源エコシステム
(ペレット工場)



三側面をつなぐ統合的取組



環境



地域資源を活用・循環させ
ワクワクする「懐かしい未来を実現」

- エネルギー** ○森林資源エコシステム構築
- 廃棄物** ○森里川海の連携「マイクロプラスチック、海洋汚染抑制」
- 人材育成** ○いのちの森をつなぐ次世代人材の育成「森の学校」「森の保育園」の創設

社会



心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現
ひとと出会い、ひとと深くつながるまちを実現

観光・歴史

- 世界遺産合掌造り家屋の保存、茅場再生

医療・介護福祉

- 地域の助け合いを育む「地域包括ケアシステム」

住宅

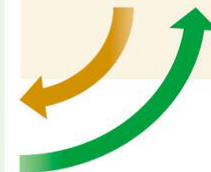
- 新たな暮らし方の提案「エコビレッジ住宅ゾーン事業」

教育

- 小規模校や複式学級すべての人に教育を「学校間をつなぐ遠隔協働学習」



地域包括ケアシステム
(住民主体のミニデイサービスでの軽運動)





2030年のあるべき姿



2030年あるべき姿と自治体SDGsの推進に資する取組との関係性
南砺市における「2030年あるべき(ありがたい)姿」

世界に発信する「南砺版エコビレッジ」の実現

心豊かな「結」と「土徳」
のまち創造

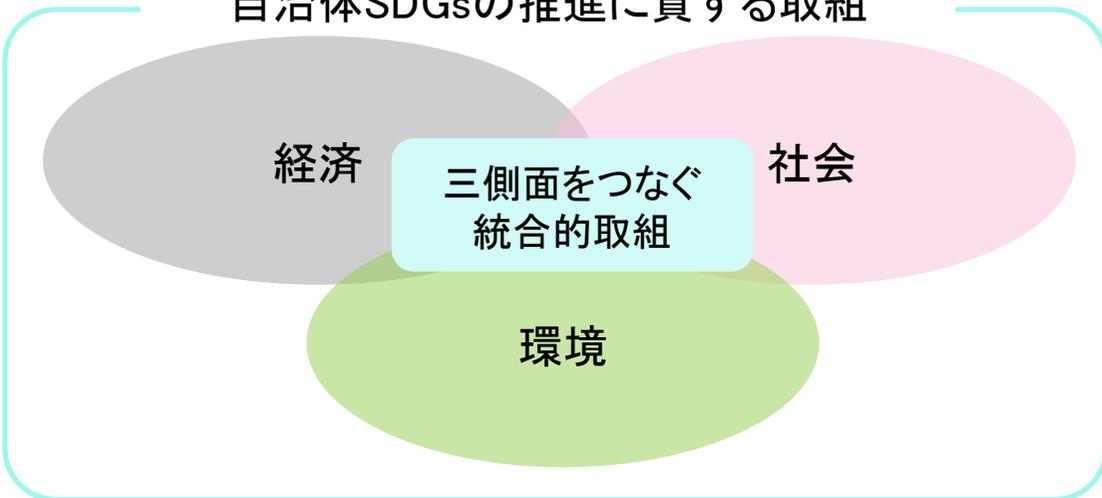
多様な仕事を育む
地域課題解決のまち創造

南砺版エコビレッジによる
新しいライフスタイルのまち創造

文化・芸術・景観・ひとが
紡ぐ交流のまち創造

バックキャストイング

自治体SDGsの推進に資する取組



「ありがたい姿」の実現を
より加速させる取組

ベースとなる思想:南砺市エコビレッジ構想

「小さな循環による地域デザイン」を基本理念とした、**6つの基本方針** これまでの取組

現在の課題



SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業の採択



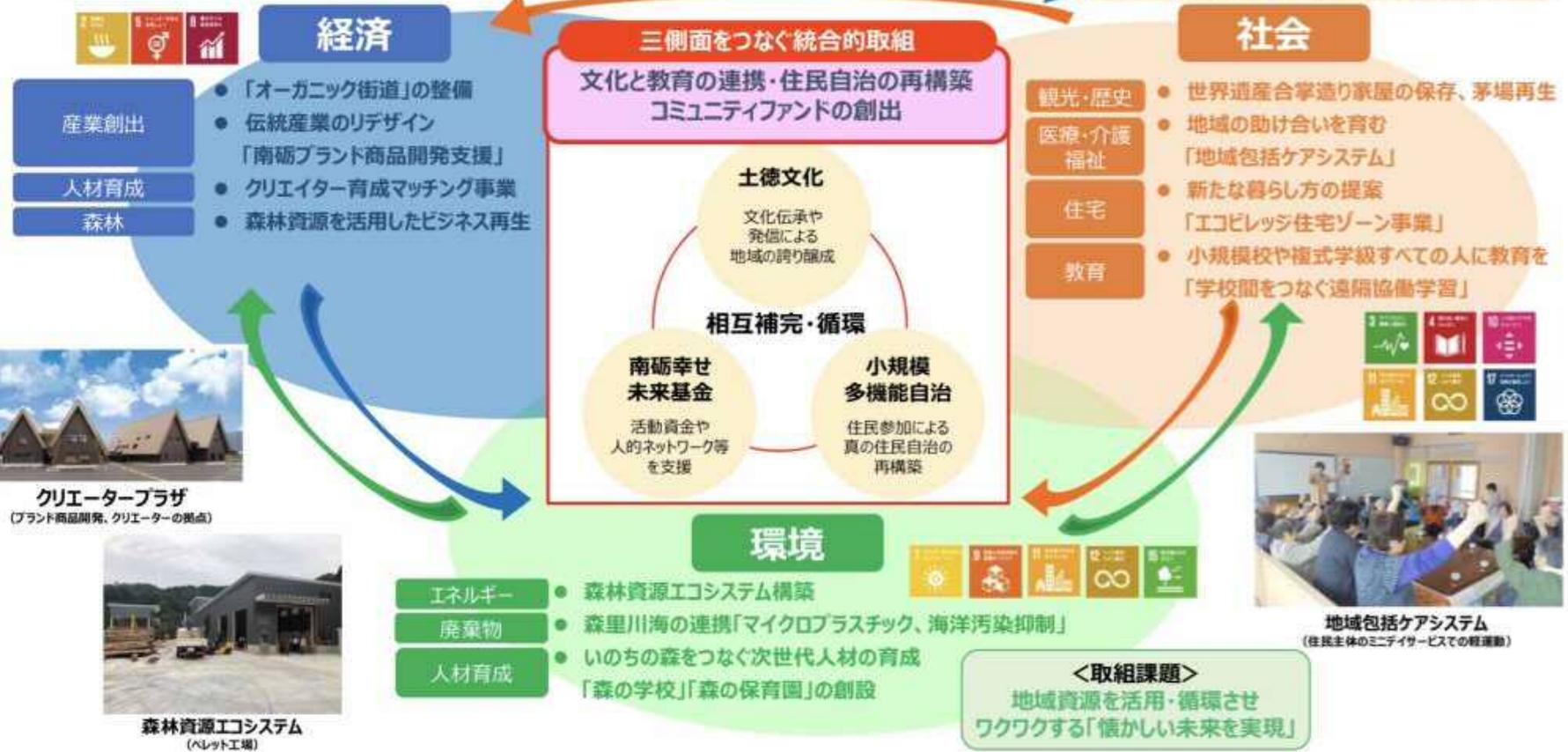
富山県南砺市

「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化 ～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～

南砺市の土徳文化を次世代に継承する取組みや支え合いによるまちづくりの取組を通して、地域資源の循環や相互補完が可能となる人材育成プログラムや住民参加による自治組織形成を促進するとともに、これらを基金運営等により支えることで、SDGsおよび「南砺版エコビレッジ事業」を更に深化させ「一流の田舎」を実現する。

<取組課題>
「やりたいこと」が「できる」地域を実現

<取組課題>
心豊かで安心して暮らすことができる社会を実現
ひとと出会い、ひとと深くつながるまちを実現





SDGs南砺市版地域循環共生圏



Promotion approach

SDGs南砺版地域循環共生圏



クリエイター育成
マッチング



オーガニック街道
南砺ブランド
商品開発支援

課題解決
雇用の創出
地域の活性化

ソーシャルビジネス・
コミュニティビジネスによる
エコビレッジ事業の推進

安心して暮らせる
地域づくり

健康医療・介護福祉・
防災の充実と自助/共助
(包括医療ケア)



地域包括
ケアシステム



付加価値の高い
ものづくり

農林業の再生と
商工観光業の連携

南砺版地域
循環共生圏
(新たなライフスタイル)

南砺幸せ未来基金と
ESG地域金融との連携

住民自治組織
小規模多機能自治

伝統・文化の継承と
交流人口増

未来を創る地域教育
・次世代の育成
・文化と教育の連携

学校間をつなぐ
協働遠隔学習

エコビレッジ
住宅ゾーン

世界遺産合掌造り家屋の
保存茅場再生

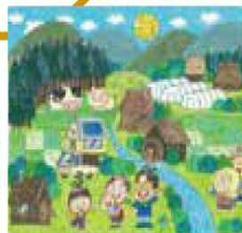


自立した
地域づくり

再生可能エネルギーの
利活用による地域内の
エネルギーの自給と
技術の育成

確かな未来は
懐かしい過去にある

森や里山の活用と
懐かしい暮らし方の
再評価による
集落の活性化



・呉西6市との連携
・海外、エコビレッジ交流

森林資源エコ
システムの構築

マイクロプラスチック、
海洋汚染抑制

「森の学校、森の
保育園」の創設



公益社団法人となみ青年会議所 及び 一般社団法人リバースプロジェクト との 持続可能な開発目標（SDGs）の推進に関する連携協定について

国の指針

国が定める持続可能な開発目標（SDGs）実施指針（平成28年12月22日SDGs推進本部決定）の中で、「自らが当事者として主体的に参加し、持続可能な社会の実現に貢献できるよう、あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視し、全員参加型で取り組む」こととしている。

南砺市における持続可能な地域社会の実現を図るための協定

- ・となみ青年会議所は、地域の若手リーダーが集まる組織であり、行動力や影響力が大きく、SDGsの普及啓発対象となる次世代を担う子どもたちや若年層、子育て世代などへのアプローチを得意としている。
 - ・リバースプロジェクトは、南砺市のエコビレッジ構想策定時からパートナーとして各種施策に携わっており、またSDGsの普及に向けた先駆的な組織として、様々なプロジェクトを展開している。
- ⇒南砺市を含めた3者が相互に連携することにより、**社会、経済及び環境が調和した、南砺市らしい持続可能な地域社会の実現を図るため、協定を締結する。**

連携する内容

- (1) SDGsの達成に向けた推進計画を策定すること
- (2) SDGsの認知度向上を図り、広く市民及び企業等に普及啓発すること
- (3) SDGsの達成に向けて、連携して実行すること
- (4) SDGsの視点に基づき、2030年のあるべき姿の実現に向けて、次世代につなげていくこと
- (5) その他南砺市におけるSDGsの達成に向けた連携協力に関すること

協定の期間

協定締結の日（令和元年7月3日）から
令和元年12月31日まで
※ただし、期間満了の1か月前までに連携解除の申し出がない限り
協定の有効期間は1年間延長されるものとし、それ以降も同様

南砺市におけるSDGsの推進体制

SDGs推進計画

・南砺市が策定
・となみ青年会議所
及びリバースプロジェクトは助言・
提案



普及啓発の展開

企業 市民 各種団体 学校



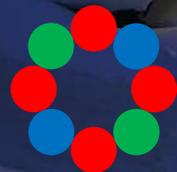
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

SDGs推進に関する連携協定 となみJCとリバーズプロジェクト



ご清聴ありがとうございました。



富山県南砺市